

農業技術センター普及指導部作物関係情報

タイトル：水稲の生育状況（8月25日現在）について

発信日：2020年8月31日

1 生育状況

本年度の県内水田の出穂期については、平年並みでした。しかし、移植時期が早い場合では平年よりやや遅くなりました。出穂期以降の気温は平年よりやや高めに推移していることから、成熟期は平年並みになると考えられます。

2 留意事項

(1) 気象

気象庁が8月27日に発表した1か月予報では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並」、日照時間は「ほぼ平年並」となっています。

(2) 水管理

出穂後高温が続く場合、特に夜温が高いと乳白粒などの未熟粒の発生が多くなるので、かけ流し等を行い、水稲への負担をやわらげましょう。

出穂後10日以降は、酸素補給により根の活力を維持するために、「間断かん水」（3cm程度の湛水状態にして、水が無くなったら再び湛水にすることを繰り返す）を行います。本年は中干しが不十分で地面が柔らかい水田が多く見られます。間断かん水は、地面を固くして倒伏防止の効果が期待できます。

落水時期は、出穂期から30日以後とします。早期落水は玄米の充実を妨げ、未熟粒や胴割粒等の障害粒の発生を助長するので避けます。

(3) 収穫

向こう1か月の平均気温は平年より高い見込みのため、成熟期は平年並みと予想されます。成熟期は、出穂期以降の平均気温の積算温度を目安としますが、黄化粳割合、粳水分、倒伏程度、作期やほ場ごとの生育等から総合的に判断します。粳の黄化程度の判断方法は図2を参考とし、収穫適期の目安は表1のとおりです。

刈り遅れは、穂発芽や胴割粒等の発生を助長し、著しい品質低下につながるため、収穫は必ず適期に行います。「はるみ」は、「キヌヒカリ」よりも穂発芽しにくいですが、刈り遅れのないようにします。

表1 収穫適期の目安となる品種ごとの黄化粳割合

品種	黄化粳割合 (%)
はるみ	85
キヌヒカリ	85
さとじまん	90

出穂期8月10日の場合

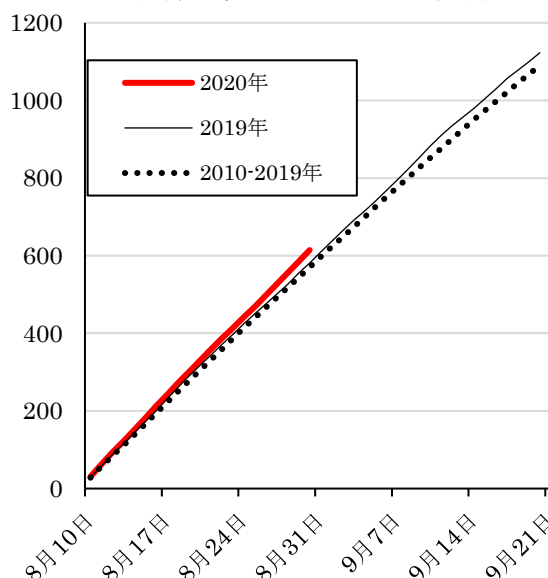
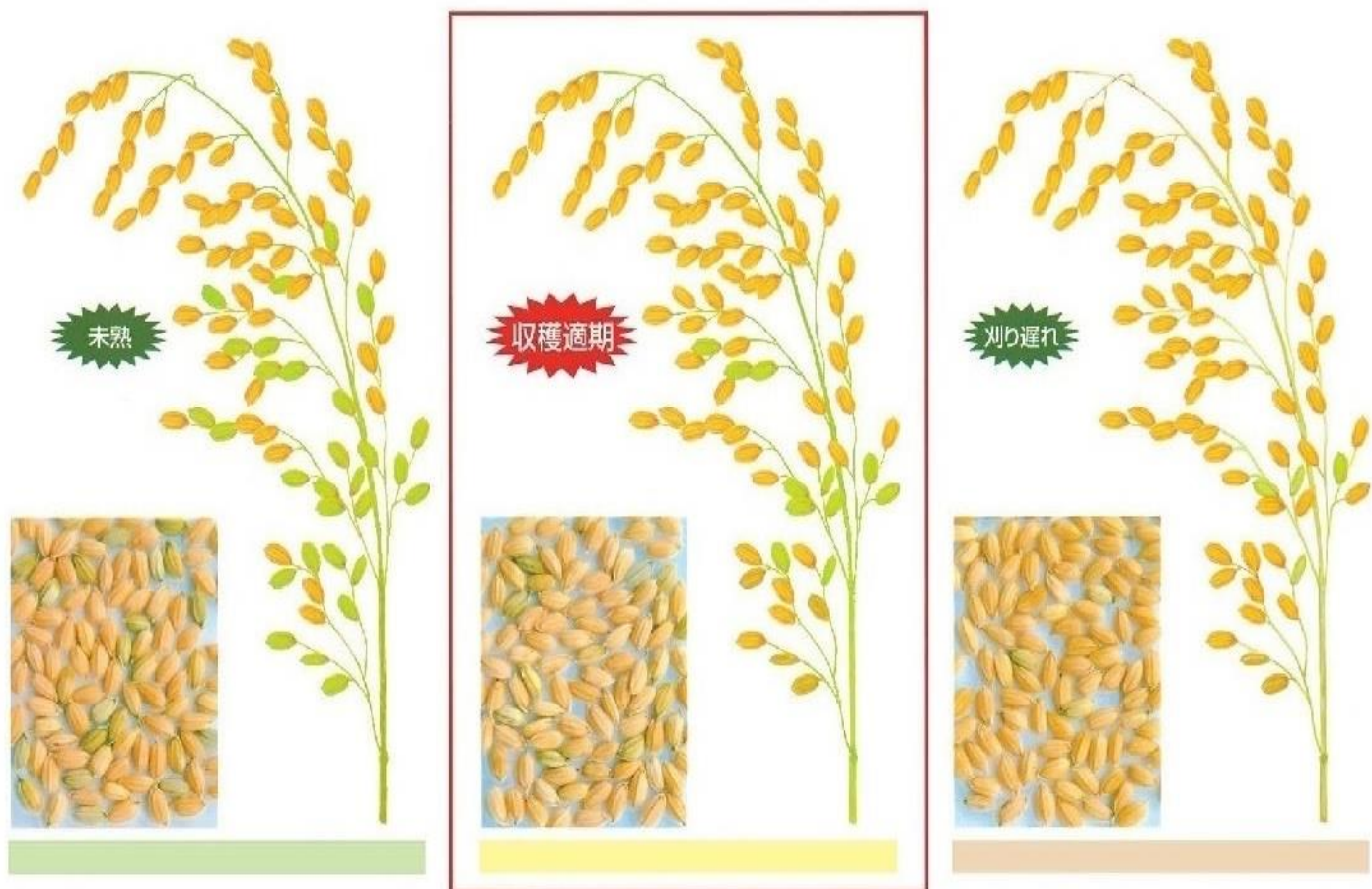


図1 出穂期以降の日平均気温の積算温度 (アメダス海老名)



黄化粳割合 85% (青粳割合 15%)

図2 1穂粳の黄化割合

(4) 注意すべき病害虫の対策

○スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) 【写真1】

ピンク色の卵塊【写真2】を水田内、畦畔・水路周辺で確認したらすべて潰します。水田内への侵入・隣接水田への被害拡大を防ぐために、水口・水尻に6～9mm目合いの網を設置して捕殺します。

○粳の褐変【写真3】

出穂期前後の強風、高温多湿の条件下では、粳枯細菌病、内穎褐変病といった病気や褐変症状が粳に発生しやすくなります。

玄米の品質を下げないために、丁寧に調製して未熟粒・被害粒を取り除きましょう。

○トビイロウンカ

本年、西日本で発生が確認されました。今後、病害虫発生予察情報に注意しましょう。



スクミリンゴガイ【写真1】



スクミリンゴガイの卵塊【写真2】



粳の褐変【写真3】

(5) 収穫作業における異品種・異物混入防止対策

- ・収穫前に、水田内のゴミや空き缶等を除去します。
- ・雑草種子混入を防ぐためクサネム、ヒメミソハギ等の雑草を除去します【写真4】。
- ・収穫前に、ほ場の事前調査を行い品種と収穫の順番を確認します。
- ・コンバインの刈刃は切れるように整備します。
- ・倒伏や刈遅れした場合、収穫時に株が抜けて小石等の異物が混入しやすくなるので、高い位置で刈り取ります。
- ・コンバインや穀類搬送機等は、エアーコンプレッサー等を使って丁寧に清掃します。



クサネム【写真4】

(6) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避や軽減のため、次の対策が有効です。水田等の見回りは、気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、大雨や強風が収まり、安全な状況になってから行いましょう。

ア 事前防止対策

- ・用排水路に詰まり等が無い点検します。定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・台風前には水田の水を深く張り、倒伏や急性萎ちょうを防ぎます。

イ 事後対策

- ・損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・台風通過後に病害虫が発生することがあるので、病害虫防除部から情報に注意しましょう。

(7) 作業安全

- ・コンバイン、乾燥機等の機械は、事前に必ず点検及び整備を行い、計画的な作業に努めます。
- ・コンバイントレーラー搬送は、低速走行のために夕暮れ時等に自動車との接触の危険性が高まります。低速車マークや反射シールを車体に添付し、事故防止を図ります。
- ・収穫作業を始める前には、コンバインの転倒・転落を防ぐため、事前に路肩や畦畔の状態を確認します。
- ・コンバインの積み下ろし時や勾配が大きい水田へ出入りする場合は、充分強度の高いブリッジ等を用いて低速で行います。
- ・コンバイン作業中に、ワラの詰まりやその他異常が発生した場合は、必ずエンジンを止めて対処します。

(8) 農作業中の熱中症に注意しましょう！

日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょう。汗で失われた水分を十分に補給するとともに、帽子の着用や、汗を発散しやすい服装に心がけましょう。

高温多湿の環境下でのマスク着用は熱中症のリスクが高まりやすいです。屋外で人と十分な距離を確保できる場合は、マスクを外しましょう。マスクを着用する場合は、のどが

渴いていなくてもこまめに水分補給を心がけ、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクを一時的に外して休憩しましょう。

【参考】

表2 農業技術センター（平塚市）における本年の出穂期及び過去10年平均成熟期

作期	品種名	本年出穂期 (平均比)	平均 登熟日数	平均登熟 積算温度	平均 成熟期
5 月 27 日 植	キヌヒカリ	8月6日*	38日	970度	9月13日*
	さとじまん	8月13日*	43日	1070度	9月25日*
6 月 7 日 植	はるみ	8月12日 (+2)	40日	1025度	9月18日
	キヌヒカリ	8月11日 (+3)	40日	1030度	9月17日
	さとじまん	8月19日 (+4)	43日	1060度	9月27日
6 月 17 日 植	はるみ	8月18日** (+2)	41日	1045度	9月26日**
	キヌヒカリ	8月16日 (+1)	41日	1047度	9月25日
	さとじまん	8月22日 (+2)	45日	1063度	10月4日

* ; 5月下旬植については、2002～2006年（5年平均）のデータに基づく。

** ; 6月中旬植の「はるみ」については、2010～2012、2015～2019年（8年平均）のデータに基づく。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課
平塚市上吉沢1617

TEL : 0463-58-0333 内線 381～384

FAX : 0463-58-4254